たまコミ

社会福祉法人 たまご会
たまごコミュニティー
発行：2010年4月30日
責任者：久保 東
〒737-0161 呉市郷原町 1943番地
TEL.0823-70-3737 FAX.0823-77-1840
http://www.namatamago.or.jp
E-mail:staff@namatamago.or.jp

障害者自立支援法

和解

障害者自立支援法訴訟

広島地裁も和解

国と原告側が終結に合意した障害者自立支援法をめぐる違憲訴訟で、身体障害のある広島県内の3人が原告となった訴訟は15日、広島地裁で和解が成立した。中国地方初となる。この日あった口頭弁論で、原告団長の秋保和徳さん(58)＝廿日市市＝が「和解は終結で成果は新たな福祉法で決まる」と意見陳述した。

植屋伸一裁判長が「基本合意文書のとおり合意したことを確認する」という和解条項を読み上げ、原告、被告の双方が受け入れた。

2006年施行の同法は、障害者福祉サービス利用料の原則1割を自己負担としたため、障害者たちが広島など全国14地裁で集団提訴した。原告側は今年1月、応益負担の廃止と13年8月までの新制度実施などで国と基本合意。埼玉地裁などで順次和解していた。

和解後の集会で、石口俊一弁護団長が「合意が絵に描いたもちになる危険性もある」と運動継続の必要性を訴えた。秋保さんたち原告も「これからも新制度実施に向けて声を上げたい」と話していた。

弁護団によると、16日の岡山地裁を含め、全国すべての地裁で今月中に和解する予定。

(和多正憲)

4/16日付　中国新聞より抜粋

2010年4月15日 広島弁護士会館

報告が遅れましたが、第3次訴訟に立ちあがったたまご会保護者会長の山本さんでしたが、訴訟直前に美香さんが肺炎になり、その後、山本さん自身が骨折となり第3次訴訟は一旦、待った!にしておきました。その間、年末から年始にかけて激しい情勢の動きの中で、基本合意書が双方で承認され、本日、和解が成立したのです。

詳しくは次ページで!

ひとりの小さな手　なにもできないけど

障害者自立支援法訴訟 和解の報告

2010年4月15日、冷たい風の吹く中、広島地方裁判所には障害者自立支援法訴訟傍聴のために100名以上の参加があり、島根や福岡（原告の方）からも応援に駆けつけていただきました。司法の場において訴訟和解がどのように成立するのか・・・。最終最後で国側が何か言うのではないか・・・等々、参加されたみなさんも期待と若干の不安の中、正面玄関から列を組み入廷しました。

車いすの方6名を合わせ、総勢48名の方とマスコミで一杯となった302号室。14：00に裁判長が席に着き、裁判が始まりました。進行についての説明から、石口弁護団長から意見陳述として、和解に向けて国との基本合意書の説明がされました。最後に「朝日訴訟判決が出て50年目の年となる今年、これからの社会保障に大きな節目となる考えを、国・地方自治体に考えてもらいたい。」と締めくくられました。

3名の原告を代表して秋保和徳さんから「ひとりの力は弱く脆いものだが、たくさん集まれば力になると頑張ってきた。このまま泣き寝入りはできないと全国で71名の原告が声を上げた。裁判は終結するが、私たちは今日がスタートだという気だ。国民のすべてが生きていて良かったと思えるよう、運動の波にのせていくことが課題となる。」と、最終意見陳述をされました。

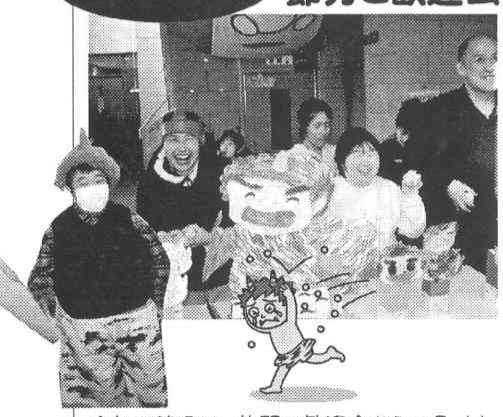
裁判長から和解内容について原告と国側に確認をされる中で「双方OKか？」と、裁判長が双方に声を出して確認するようにと指摘される場面もありました。裁判長の「以上の内容で和解します。閉廷。」の言葉で、広島における障害者自立支援法訴訟の和解が成立しました。全国で8番目の和解となりました。14：33終了。

その後、弁護士会館に移動し和解成立の報告会が行われました。歌のボランテイア山上さんによる「明日にむかって」（作詞：秋保喜美子さん）を参加者全員で歌い、秋保喜美子さんから報告が行われました。「裁判は短かったが、5年の運動が実ったと感じた。運動と訴訟で自立支援法という悪法を取り払う突破口はできた。基本合意書は大きな宝物であるが、一般の人たちは分かってもらっていない。知っている私たちが前に突き出して進めていくべき。しかし、厚労省は基本合意書に関しては認めるが、要望書は認めないという姿勢であると聞く。要望書の内容も中身に入れていくように頑張っていこう。」と話されました。石口弁護団長からは「弁護士としては、裁判ですべて取って終わるのが良いのだが、今回は8割ぐらいか。どこの和解の席でも、これで終わりだが始まりだ！という声が上がっている。政府も司法の場で約束したことは大きい。それは国民の多くの目と耳で確認したことが大きいのだ。終わりが始まりという事で一緒に頑張っていきたい。」と話されました。秋保和徳さん、森岡靖夫さん、勝利をめざす会の榊さんからもお礼と今後のさらなる連帯と運動の重要性を話されました。事務局の井上さんから、勝利をめざす会は組織変更を行い障害者自立支援法訴訟基本合意の完全実現をめざす会として活動を始めて行く趣旨が説明されました。

その後、会場の参加者からも感想や今後の決意表明なども出され、最後は参加者全員で「ひとりの小さな手　何もできないけど　それでもみんなとみんなが集まれば　何かできる　何かできる」の大合唱の中、和解成立の報告会を終了しました。くたまご会からも藤井君・西村君・佐々木君・平石波さんが和解報告会に参加してくれました。西村君も和解が成立して良かったと発言してくれました。

>（K）

2月5日（金） 節分と歓迎会



今年の節分は、仲間の歓迎会からスタートしました。チーム対抗で、移動すごろくをしたり、みんなで作った牛乳パックの大将オニ、そのまわりを小さなオニで囲み、2チームに分かれて大将オニをめがけ、玉を投げ合いました。途中、大きな「職員お手製オニのパンツ」を履いた仲間オニの登場に、みんな大爆笑。みんなの笑顔が、大きなオニをやっつけましたとさ。

2月19日（金） 昼下がりのフルートデュオコンサート

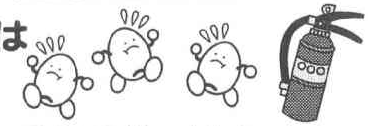
表現音楽療法士の狩谷さんとピアノの宮原さんによるフルートコンサートが、たまご会で行われました。ドレス姿の二人の登場に仲間も職員もくぎづけ。「大きな古時計」や「世界にひとつだけの花」など、なじみのある曲で歌を口ずさんだり、どこかで聴いたことのあるクラシックメドレーに心躍らせたりと、優しいフルートの音色に、心癒されるひとときを過ごしました。

4月2日（金） お花見と歓迎会

前日から天候が悪く、お花見に行けるかどうか心配していた仲間たち。てるてる坊主を作った仲間もいて、当日は、快晴とまではいかなかったもののなんとか雨も上がり、場所を変更してのお花見となりました。近くの公園ということで、徒歩組、車組に分かれて、ワイワイ出発。郷原にある鷹犬原公園の桜は、どこの名所にも負けないくらい一面にふわぁーっと咲いていて、その美しさにみんなうっとり。桜の木の下で、新しい仲間4人の歓迎会が行われ、自己紹介、質問コーナーなどで盛り上がりました。肌寒くなってきたので、お楽しみのお花見弁当は、たまごに帰って食べたのがちょっぴり残念でしたが、とっても楽しい一日でした。

ケアホームたまごにて 防災避難訓練を実施しました

仲間の安全を守るのは制度?それとも職員?



3月25日（木）午後5時10分「火事だ～!」「あわてないで避難してください!」いつもとは違う緊張した声がケアホーム内に響きわたりました。たまご会での日中活動から、または職場から帰宅した仲間は、それぞれの居室で入浴や食事までの時間を過ごしている時間帯を想定した避難訓練が、ケアホームで初めて行われました。　夕食準備中のてんぷら油に火が引火。あっという間にカーテンや壁も黒煙とともに炎にのみこまれ、職員は二手に別れ一人は2Fの仲間の避難誘導。もう一人は1F居室の車イスで生活している仲間に駆けつけます。ベッドで横になっているAさんを車イスに移乗する余裕はありません。急いでタオルケットを床に敷き、その上へAさんに乗ってもらう。部屋には僅かな段差もあり、一人ではAさんが横に転ばないよう移動するのもままなりません。やっと廊下までたどりつきましたが、火の手は強烈な煙とともに行く先を塞いでしまい、引き返そうにも窓から外に出るにはフェンスが邪魔をし、この状況ではどうしようもありません。

ホーム開設から一年半。初めての取り組みから多くのことを学びました。当日は二人の職員がいる時間帯で設定しましたが、もちろん夜間は1人で7名の仲間（うち車イス2名、聴覚障害の仲間もいらっしゃいます）を見守ります。実際に火災がおこってしまうと、できることは僅かしかなく、だからこそ、安心、安全に生活できるよう、職員として日頃から気をつけなければなりません。

今年3月、北海道のグループホームでおこった火災では、認知症や介護の必要なお年寄り7名が亡くなりました。同様の事故は後を絶ちません。なぜこのような痛ましい事故が防げないのでしょうか?避難計画書が消防署に未提出のまま。防災避難訓練も実施せず。自動火災通報装置やスプリンクラーも未設置。施設の危機管理が希薄なのでは。職員の対応にも問題はなかったか・・・。マスコミは、運営事業所の無責任さ不備を指摘し、報道してきました。確かに多くの命を守れなかったその責任は重いものがあります。しかし、重い障害や認知症を持つ人が、安心して暮らせるグループホームにおいて、その安心を担保する職員が、なぜ1人しかいないのでしょうか?また、スプリンクラーの設置をするようにとの指示はあっても、高額な改修費が必要で、設置できにくいのが現状です。（北海道のケースでは設置義務の対象外だったため、国の財政支援は無い）今回の悲しい事件は、特に生活を支える分野における国の貧しい福祉施策が生み出したという背景があるという点も指摘されるべきだと考えます。

厳しい状況は、たまご会のケアホームでも同様です。この度の防災避難訓練の経験を活かし、いくつかの改善を行います。1F居室にバルコニーを設け、フェンスは開閉式とし、緊急時にはスロープになるように改装します。日頃より仲間・職員の防災意識を持つことはもちろんですが、限られた職員での対応では限界があるため、これまで以上に近隣の方々にも協力していただけるよう、双方の顔が見える付き合いを心がけたいと考えています。（室）

新しい仲間

中本匡彦さん
体は小さいけど、18歳です。ぼくは、車と仮面ライダーが好きです。特に仮面ライダーの1号からスーパーワンまでが大好きです。よろしくお願いします。

水谷直也さん
動物が好きで、小さい頃には、捨て犬を連れて帰ったり、イルカの調教師を夢みていたこともありました。今では、音楽やアニメが大好きな36歳です。これからもよろしくお願いします。

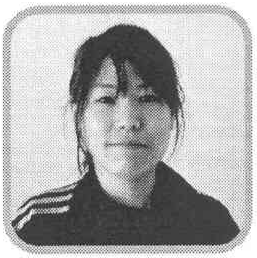
道保重徳さん
初めまして。長いリハビリを終え、呉に帰ってきました。たまごでトールペイントをしたり、絵を描いたりしたいと思っています。実はちょっと絵がうまかったんですよ。

中居美優さん
おしゃべりはできませんが、いろんな事を観察することが大好きな、ちょっとおちゃめで恥ずかしがりやな…!?イケメン大好きな女の子です。

大西明美さん
3月からたまごに来ています。演歌、カラオケ、はさみ将棋、食べることなど大好きなこといっぱいです。それと、優しい男性も大好きです。これからもよろしくお願いします。

新しい職員

出口真里
初めてのことばかりで、まだまだ未熟ですが、仲間と共に何か得るものを感じられるといいと思います。よろしくお願いします。



田中啓代（ケアホーム勤務）
心と心が通い合うケアホームを作っていきたいと思います。これからよろしくお願いします。

飯野美雪
いつも笑顔と元気で頑張ります。よろしくお願いします。

2010年度 たまご会後援会員 継続会員・新規会員募集

たまご会後援会員のみなさまへ

平素より、たまご会の活動に対するご支援とご協力、関係者一同、心より感謝申し上げます。みなさまのおかげをもちまして、今年度も順調なスタートを切ることができました。新しい仲間、職員も加わり、ますます充実した取り組みをしてまいりたいと思っています。つきましては、たまご会後援会員の更新、また新規の方にお声をかけていただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

2010年度 たまご会後援会総会開催のご案内

と き　2010年7月24日（土）13:00～

ところ　広公民館（新広駅前）5F 第1小会議室

1部　13:00～ 総会

2部　13:50～ 映画「さくらんぼ 母と来た道」上映会

16:00 終了 その後懇親会あり

さくらんぼ 母と来た道

伝えたかった「ありがとう」

舞台は1980年代の中国、美しい棚田がどこまでも続く、豊かな自然に抱かれた雲南省の農村。知的障害をもつ母親と、足に障害のある父親に育てられた紅紅（ホンホン）。飾らず、真っ直ぐな愛ゆえに描かれるドラマは、やがて、見るものを静かな感動へと導いてくれます。

クッキー&アイス工房からのお知らせ

くれえばんの取材を受けました!!

地元呉の素材を活かし、地域に根ざした商品の紹介です。アイスは郷原のとうふ、下蒲刈の姫ひじきの塩を使った商品。クッキーは、クリスマスケーキ、生チョコ、桜シフォンなどに黒瀬鶏卵を使い、季節ごとの商品にチャレンジしていることをアピールしました。今後のたまごの商品をお楽しみに!

職員にひとことインタビュー

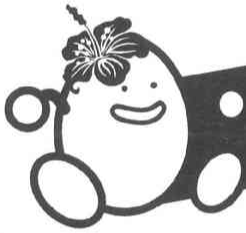
今回は、たまご会に来て5カ月になる赤木奈緒美さんに聞いてみました。

たまご会ってどんなところ?

「自分を見つめ直す場所です。こんな自分でいいのか、自分になにができるのか、悩んだりへこんだりの毎日ですが、仲間の明るさや優しさに励まされて頑張っています。まだまだ未熟ですが、これからも仲間と一緒に頑張っていきたいです」

赤木さんは、いつもにこにこ，笑顔の素敵な女性です。家庭では1児の母親でもあり、子育て真っ最中。これからも仲間と一緒に、元気に楽しく過ごしていきましょうね。

夏はやっぱり、ハイビスカスTシャツ!



毎年恒例のたまごTシャツ。
今年は夏らしいハイビスカスをデザインしました!

1着2,100円（税込）

サイズ：150cm, WS, WM, WL, S, M, L, XL

カラー：アーミーグリーン，キーライム，ブラッドレッド
オーシャンブルー，フラミンゴピンク，ディープネイビー

社会福祉法人
たまご会

・障害者活動センターたまご【知的障害者授産施設（通所）】
・生活介護センターたまご

〒737-0161 呉市郷原町1943番地 TEL.0823・70・3737 FAX.0823・77・1840

交　通

●広駅からタクシーで約20分（1,500円程度）

●JR/バス：呉駅（広駅経由）広駅から西条駅行きまたは、賀茂療養所行きに乗車
渡川バス停で降りて徒歩15分

●呉市営バス：呉駅から郷原黒瀬線「兼広行き（呉大学行き）」⑦か⑧のりば
「広島文化学園大学」か「渡川」で下車

ギフトにもたまごのお菓子をご利用ください！心を込めてラッピングいたします！ご注文は、電話かファックスで。